

第248回鳳雛講座 令和6年9月4日(水)

9月4日(水)に今年度5回目の鳳雛講座を行いました。講師は曲げわっぱ工房E08(いーわっぱ)代表責任者で伝統工芸士の仲澤恵梨さんが務めてくださいました。合わせて約100名の一中生、保護者が参加し、仲澤さんにご自身の経験や感じてきたこと、次世代への期待を含め熱く語ってくださいました。講話後には商品を手にとって見る時間もあり、最後まで盛り上がった時間となりました。

○講話の内容

・ 伝統工芸士としての仕事…

厳しい冬だからこそ育つ木目の美しい木、だからこそできる伝統工芸品の曲げわっぱ。この道に進もうと思ったきっかけは、高校時代に体験を通して伝統工芸に出会ったこと、そして短大に進学して専門知識を学んだ。伝統工芸士になるには実技・筆記試験があり、合格して初めて伝統工芸士に認定される。仲澤さんは、女性として最年少で合格した。入社した当時は覚えることも怒られることも多く、厳しいと感じることもあったが、の中で自分自身の技術やセンスを高めてきた。職人の多くは男性、購入者の多くは女性…自分が女性としてできること、自分の技術を生かしたいと考え、独立し現在に至る。

・ 仕事で心がけていること

伝統工芸品の曲げわっぱを周知することや、将来につながる新しい形での伝統工芸を提案するために、思いついたことをとにかくやってみることやお客様からの意見を参考にすることを大切にしている。それが今までになかった商品開発につながっている。また、女性であることの意味を大切に仕事に臨んでいる。デザインはもちろん、今後女性の伝統工芸士が増えて活躍できるように担い手を育成することも大切な役目である。アクセサリーに目を向けたのは、自分自身がアクセサリーに興味があり好きだったから。伝統にとらわれすぎず、新たな伝統を築くことを心がけている。

○結びに

これから目指す自分の未来を実現するために、お客様が何を欲しているのかを考え、自分の辛かった経験を生かして楽しく明るい雰囲気をも自分から発信することで次の担い手を育てていきたい。自分の姿は相手の姿、嬉しいことも辛いことも全て自分の姿が相手に映し出されていると考えている。だからこそ自分を大事にしたいし大事にしてもらいたい。それを実現するためには人とのつながりが大事である。物作りのスタートは自分の「好き」から始まる。人とのつながりこそが自分の成長、そして仕事や技術を高めることに直結する。勉強も然り、興味のあることに特化することで新しい世界につながり、それを自分の将来につなげてほしい。

○生徒の感想から

- ・ 伝統工芸士になることは難しいと思ったが、実際に曲げわっぱの製品を見てとてもきれいだと思った。身近な人にプレゼントしてみたい。
- ・ 一つの製品にたくさんの思いが詰まっていることが分かった。家にある曲げわっぱの製品を改めて使ってみたい。
- ・ お弁当の他にもアクセサリーなど幅広い可能性があることが分かった。さらにお客様の意見を取り入れたり、新しい製品の開発をしたりすることは勇気のいることだと思う。私も小さな勇気を大切に、これからの勉強や生活にも生かしていきたいと思う。





